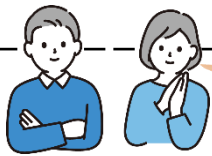


八雲町社会教育委員だより

第 19 号

令和7年3月31日発行

八雲町社会教育委員 事業部



社会教育委員って？

社会教育委員は、学校教育関係者や社会教育関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行っている方々などに教育委員会から委嘱されている、八雲町の条例委員です。

全14名で構成されており、八雲町社会教育行政に関して教育委員会に助言をする役割を果たしています。地域において社会教育に優れた知見を有する人々の知識を、社会教育行政に反映させていくことが期待されています。

このたよりでは、私たち社会教育委員の活動をご紹介します。



社会教育事業を紹介します！

令和6年度、八雲町社会教育委員(事業部)では、部員それぞれが興味関心のある社会教育事業への参加や見学を通してその様子をレポートすることにしました。



レポートの全文、各事業の詳細は八雲町HPからご覧ください♪

ユーラップ川自然体験学習会「鮭の産卵遡上観察会」



観察会の参加者は子ども3名、大人5名の計8名で、鮭捕獲場、鮭産卵橋、ポンセセイヨウバツ橋での鮭の見学、ナンマツカ林道の探検というプログラムでした。

鮭捕獲場では職員の方から鮭の捕獲の様子や雌雄の見分け方などを教わり、鮭産卵橋では遡上・産卵する鮭の様子を橋の上や川岸から観察し、講師の稗田先生から詳しい説明を聞きました。

水しぶきを上げて泳ぎ、時に尾びれで産卵床を掘る鮭の姿を目の当たりにし、子どもも大人も大興奮。川には命があふれていました。

稗田先生からは、産卵後の鮭は死んでしまうけれどその養分が河岸の木々を育み、ワシやキツネなどが食べることによって森に鮭の養分がもたらされるというお話がありました。自然界ではいろいろなものが私たちの知らないところで循環しているようです。

鮭が生まれた川に帰るように、八雲で育った子供たちが大海原を旅し再び八雲に戻ってきてくれるよう魅力ある街づくりに社会教育活動が役立てばいいなと感じました。(取材担当:事業部 寺田)



勾玉作り体験

毎年子どもたちに人気の勾玉作り体験をのぞかせていただきました。会場には親子連れの低学年の子から高学年までの小学生が大勢、ブルーシートの上でひたすら石を削ることに集中。とても楽しそうな雰囲気でした。「今は紙やすりで削っているけど、昔の人はどうやって削っていたのかな?」「勾玉って昔の人のおしゃれだったのかな?」「強く見せるお守りなのかな?」



石を削る体験をしながら昔の人のことを考えたり想像したりと、子どもたちの頭の中はまるで四方八方に伸びていく木の枝のように、1つの事柄からいろいろな考えが広がっているんだなと感じました。

苦労して出来上がった個性豊かな勾玉をうれしそうに見せ合う子どもたちはきっと気がついていないと思いますが、「体験することにより疑問が生まれ、いろいろと考えてみる、歴史を紐解いてみる」という学習を勾玉作りから体験することができたと言えるでしょう。

大人も子どももなぜか夢中になる勾玉作りは、不思議な魅力にあふれた素敵な教室でした。

(取材担当:事業部 鈴木)

公民館生涯学習講座「八雲を知ろう！八雲学」



「知れば誰かに話したくなる…知られざる八雲のひみつ！」と題した「八雲学」講座に初めて参加しました。

どの講座も新たな発見と感動があり、何年も前から開催されていたことは知っていましたがもっと前から参加していればよかったと思うほど、有意義な「まなび」となり、この八雲町が近代酪農発祥の地であることや、八雲の牛乳・チーズを使った調理実習、落部の漁業の歴史のこと、今新たに果樹が育つ環境であることを証明してくれた協力隊の存在、そしてホタテの貝殻で新素材の開発や舗装材に用いていることなど、知らないことばかりでした。

今年の「八雲学」も大変楽しみにしていますが、もっとたくさんの町民の皆さんにも聞いていただきたいと思います。また同時に、八雲町やその周辺地域の「これから」を考える良いきっかけにして、老若男女問わず色々な課題について話し合う場も必要だとも思いました。

豊かな町づくり、人づくりに少しでも貢献できるよう微力ながら取り組んでいきたいです。

(取材担当:事業部 小西)

全町女性研修会「体は食べ物でできている 体にいいものを食べよう」

公民館で全町女性研修会が開催されました。女性研修会という名前ですが、男性やお子さん連れの参加者もいて、活気ある雰囲気が感じられました。

前半はローラ♡ファームの長谷川照美氏による講演があり、有機農業の重要性や日本の食料自給率の現状について聞き、体に良い食事を追求することの大切さを学びました。

後半は参加者同士楽しくおしゃべりしながら、大根餅、豚汁、つくだ煮の調理実習を行いました。使われた食材は肉や野菜だけでなく、調味料まで体に良いものが厳選されていました。その後、黒せんごく豆を使った豆ごはんのおにぎりとともに、調理した料理を参加者全員で美味しくいただきました。

この研修会では日々の食生活を見直す良いきっかけとなりました。

(取材担当:事業部 小野)



平和学習事業



私は中学校にあがるまで戦争や核兵器の恐ろしさについて深く考えることがなく、良くないことだというイメージしかありませんでした。しかし、学校の授業などで戦争や核兵器に関する情報を知り、自分の中でイメージが変わっていきました。私は、より詳しく調べたい、そして、たくさんの人に戦争や核兵器の恐ろしさや残酷さを伝えたいと思い、被爆地広島で平和学習を行う八雲町平和学習事業に参加しました。

広島でとても印象に残っているのは「原爆ドーム」と「被爆者の方のお話」です。

原爆ドームでは核兵器の破壊力に驚きました。核兵器には一瞬でなにもかもを破壊する力があります。建物だけではありません。原爆が投下されたあとの人々の生活はどれほど苦しかったらうか。私達が今過ごしている”当たり前の日々”は当たり前じゃない。そう考えると私は、今までの自分の生活を改めないといけないなと感じました。

被爆者から聞いたお話の中で一番印象に残っている言葉があります。「捨てていい命、奪っていい命なんてない。」という言葉です。

平和を実現するのは難しいのかもしれませんが、それでも、私が平和実現のためにできることはしたいと思います。例えば、家族や友達との関わり方や人の悩み事を聞いてあげたりと細かいことでも誰かが少しでも幸せに暮らすことができればより良い世界を作ることができるのではないのでしょうか。

私はこの派遣を通して学んだことを学校祭で発表し、少しでも知ってもらうことができたと思います。これからもより多くの人に伝わるようにいろいろな場面で発表したりしたいです。

(このリポートは、事業部員の依頼により、実際に広島派遣に参加した生徒から寄稿いただきました。)